

第6回農業分野における外国人材受入れセミナー

カンボジア情勢とカンボジア人材の有用性

在カンボジア日本大使館 安藤 賢太 一等書記官

1. カンボジア概況



- 人口...約1,763万人（2024年、国連）
- 面積...18.1035万km²（日本の約半分）
- 民族...人口の大半（9割）がクメール人と言われる。
他に中国人、ベトナム人、チャム人など
- 宗教...上座部（小乗）仏教（97.1%）
イスラム教（2%）、キリスト教（0.3%）
- 政治体制...立憲君主制
- 経済体制...市場経済
- 一人あたりGDP...約2,740米ドル（2024年推計、出典IMF）
- 在留邦人数...3,012人（2024年10月）
- 進出日系企業数...417社（2023年10月）
- 気候...年間を通じて高温多湿な気候（乾季は11月から5月まで、雨季は6月から10月まで）。年間平均気温は約25~35℃

1. カンボジア概況

(1)カンボジア歴史



●8世紀～15世紀 クメール王朝時代

クメール王朝は、東南アジアにおける最も強力な王朝の一つであり、アンコールワット、アンコールトム、バイヨンなどの壮大な寺院を建設。また、仏教やヒンドゥー教の影響を受けながらも、独自の芸術、文学、音楽、舞踊などが発展。クメール文化は、東南アジア文化に大きな影響を与え、現在でも、カンボジア文化の基礎となっている。

●19世紀 フランス植民地時代

19世紀には、フランスは、カンボジアの政治、経済、社会を支配し、カンボジアは、フランスの植民地となった。

●20世紀 フランスから独立～ポル・ポト政権時代～現在

第二次世界大戦後、フランスは、植民地支配から撤退し、1953年にフランスからの独立を果たす。独立後は、政治的な不安定さや経済的な困難に直面し、ベトナム戦争の影響を受け、内戦に突入、1975年ポル・ポト政権が支配。1993年国連の監視下で、民主的な選挙を実施し、以降ポル・ポト政権による虐殺から復興を目指し、経済成長と社会開発に取り組んでいる。

1. カンボジア概況

(2) 経済状況

コロナ禍以前は、貿易、建設業、観光の順調な伸びを背景に高い成長率。2020年は内戦後初のマイナス成長を記録したが、コロナ禍以降は再び回復基調。

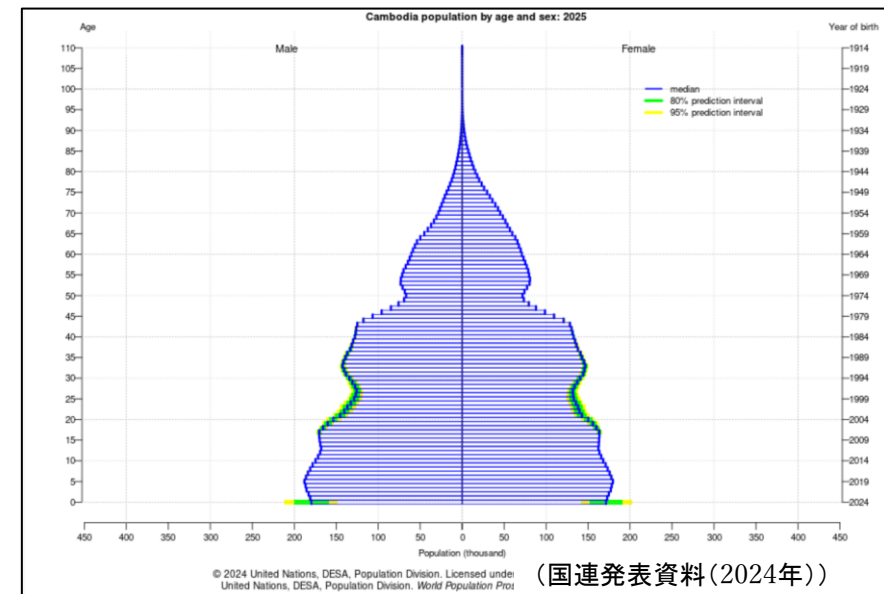
年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
成長率%	7.2	7.9	8.1	8.8	7.9	-3.6	3.1	5.1	5.0	5.5
インフレ率%	1.2	3.0	2.9	2.5	1.9	2.9	2.9	5.3	2.1	0.5

(3) 内政

- 2023年7月の総選挙で、与党人民党が圧勝(125議席中120議席を獲得)し、8月にフン・マネット首相(前首相の長男)による新内閣が発足。2024年2月の上院選でも人民党が圧勝(改選58議席中55議席を獲得)。38年間首相を務めたフン・セン前首相は上院議長に就任。
- 2018年及び2023年の総選挙をめぐり、カンボジアにおける民主主義の状況への批判がある中、民主的発展が課題。

(4) 人口の動き

- 総人口: 約1,782万人(2025年)
- 平均年齢: 26.2歳(2025年)。
- 人口増加率: 1.19%(2025年の予測値)。
(2010年の1.53%、2020年1.37%と、人口増加率は緩やかな減少傾向)
- 人口増加は2050年まで続く見込み。人口のピークは2,173万人と予測。



1. カンボジア概況

(5) カンボジアへのアクセス

- 日本からの距離は約4,470km(東京⇄プノンペン)
- 10月26日より、プノンペン～東京(成田)間の直行便(福州経由)を運行開始。
- 現在、韓国・ベトナム・タイ・香港経由が主な経路先となっている。フライト時間は約9時間～12時間(乗り継ぎ含む)



(6) 親日国カンボジア

- 1980年代後半以降、我が国はカンボジアの和平・復興・開発に貢献。1992年9月、初のPKOをカンボジアに派遣。
- カンボジア元日本留学生が、カンボジアの各業界で大活躍(現在、元日本留学生3名が現役の閣僚を務めている)
- 日本技術・文化への尊敬が強い。日本の漫画、アイドルなども若者に人気となっており、自動車や電化製品などの日本製品への信頼も厚い。
- カンボジア紙幣の500リエル札には日本の国旗が描かれている。



1. カンボジア概況

(7) 主要産業

- 主な産業は、①農業、②縫製業、③観光・サービス、④不動産・建設業。
- 農業・縫製業・観光・サービス業は外需を中心に緩やかに成長。不動産・建設業はリスク感が継続。

産業別GDP構成比

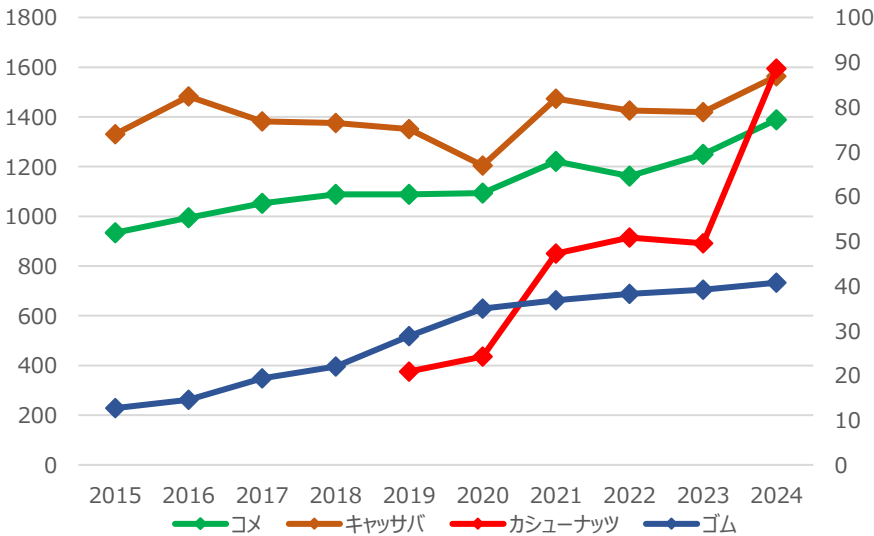
(出所) 2024年推定値、Ministry of Economic and Finance

産業	100万ドル(単位)	前年比伸率(%)	構成比(%)
第一次産業	5,287	1.8%	14.2%
縫製業	6,317	18.0%	16.9%
建設業	3,216	2.1%	8.6%
他第二次産業	6,678	7.8%	17.9%
不動産業	1,225	2.2%	3.3%
宿泊・飲食等	1,596	14.1%	4.3%
貿易	3,396	4.9%	9.1%
他サービス産業	7,138	4.6%	19.1%
その他	2,488	7.0%	6.7%
	37,342		100.0%

(8) カンボジア農業

- 農家(農業世帯)数: 約185万世帯、農業従事者数: 約350万人(就業人口の約36%)。農地面積: 約628万ha(国土の35%)
- 主な生産物: 米(1,389万トン)、キャッサバ(※2)(1,568万トン)、カシューナッツ(88万トン)。(2024年、カンボジア農林水産省)
- 課題: ①灌漑排水施設の整備、②営農の機械化促進、③農産物の品質・安全性、④農産物付加価値の向上、⑤加工・輸送コストの低減

主要作物の生産量推移(2015年~2024年)



2. カンボジア・タイ間の国境を巡る紛争

(1) 背景

カンボジア・タイ間では、境界画定ができていない地域が多数存在し、これまで度々国境を巡って軍事衝突が発生。2008-09年にプレアビヒア寺院周辺で銃撃戦があったほか、2010-11年には、同寺院に加えて、ターモアン・トム寺院及びタークロバイ寺院周辺でも銃撃戦が発生し、両国軍に死傷者が発生(2008-11年の衝突による死者数十名程度)。その後、情勢は安定していた。

(2) 事案の推移

- | | |
|-----------|--|
| 5月28日 | モムバイ・チョンボックの係争地域で10分間の 軍事衝突が発生 (カンボジア側死者1名)。その後、両国は事態沈静化に向けて努力していたが、6月7日にタイ側が国境を閉鎖して以降、 両国が互いに国境管理の制限を課す形で、緊張が継続 。 |
| 7月16, 23日 | 国境巡回中の タイ軍兵士が地雷により負傷 (地雷埋設主体に関する主張は対立)。両国は、それぞれ 外交レベルの引下げ を決定。 |
| 7月24日 | 国境地帯の 複数箇所で軍事衝突 が発生。 |
| 7月28日 | マレーシアにおいて馬(ASEAN議長国)主催・米国共催、中国参加の下、カンボジア首相とタイ首相代行が協議。同日24時からの 無条件停戦、地域司令官による非公式会合、一般国境委員会(GBC)開催に合意 。馬は停戦合意履行メカニズムの策定を企図。 |
| 8月7日 | マレーシアにおいて両国国防大臣によるGBC特別会合を開催(馬、米、中がオブザーバー参加)。停戦合意内容を確認。ASEAN停戦監視団(AOT)設置までの間、両国で 暫定監視チーム(IOT)をそれぞれ設置 し、1か月以内に次回GBCを開催することで合意。 |
| 9月10日 | カンボジアで両国国防大臣によるGBC特別会合を開催(二国間のみ)。 AOT設置に関するTORに原則合意 し、物流再開・地雷除去・越境犯罪対策等での協力にも合意。 |

7月31日以降、国境付近における交戦は発生していないが、両国は主に以下の3点で非難の応酬を継続:①タイによる鉄条網設置、②タイ兵士の地雷被害、③タイに拘束されたカンボジア人捕虜18名

(3) 我が国の取組

- 7月24日、大臣談話を発出し、両国間の軍事衝突発生への憂慮を表明、両国に対して最大限の自制を求めた。また、**7月25日にカンボジアと同30日にタイと外相電話会談**を実施し、両国に対して事態の平和的解決を促した。
- 8月15日、両国国境地域において発生している緊急人道ニーズに対して、**総額180万米ドルの緊急無償資金協力**を実施することを決定。
- 8月25～29日、**鈴木秀生メコン協力大使を、マレーシア、カンボジア及びタイに派遣**。停戦合意の着実な履行の呼びかけを含め、緊張緩和に向けた意見交換を各国政府関係者等と実施。

主な人的被害(8月29日時点)

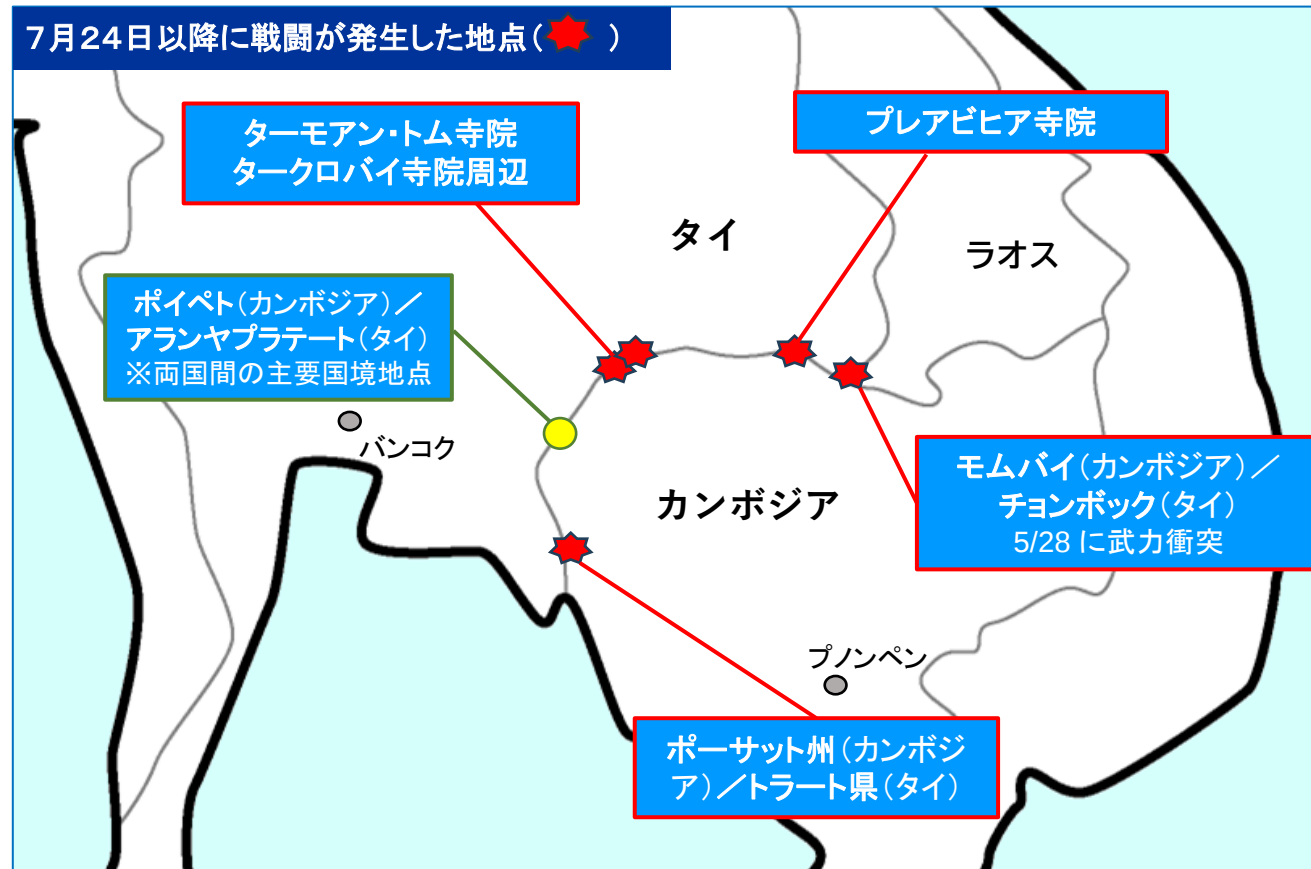
<タイ側>

- ❑ 死者32名(内民間人17名)
- ❑ 負傷者237名(内同38名)
- ❑ 7月末時点で避難民19万人だったが、現在、避難所は全て閉鎖。

<カンボジア側>

- ❑ 死者30名(内民間人8名)
- ❑ 負傷者71名
- ❑ 避難民32,653人
- ❑ 7月24日以降タイから労働者等が92万人帰国

7月24日以降に戦闘が発生した地点(★)



3. カンボジアの様子

プノンペン市内の風景



プノンペンの王宮・ビル群



プノンペン市内の渋滞

3. カンボジアの様子

プノンペン市内の風景



イオンモール、3店舗展開

3. カンボジアの様子

カンボジア地方の風景



田舎にある家



地方にある病院(病室)

4. カンボジア人労働者等の送り出し

- カンボジア人の海外への出稼労働者の総数は、138万人。
- 主な出稼ぎ先国は、人数の多い順に①タイ(130万人(内92万人帰国))、②韓国(4.6万人)、③マレーシア(2.1万人)、④日本(2.0万人(内訳技能実習生15千人、特定技能5千人))
- 文化的・物理的両面で近いタイ、賃金が稼げる韓国に人気が集まっている。
- カンボジアにある日本向けの送出国機関の総数は103社。(2025年現在)

Cambodian Migrate Worker by Top 5 Countries

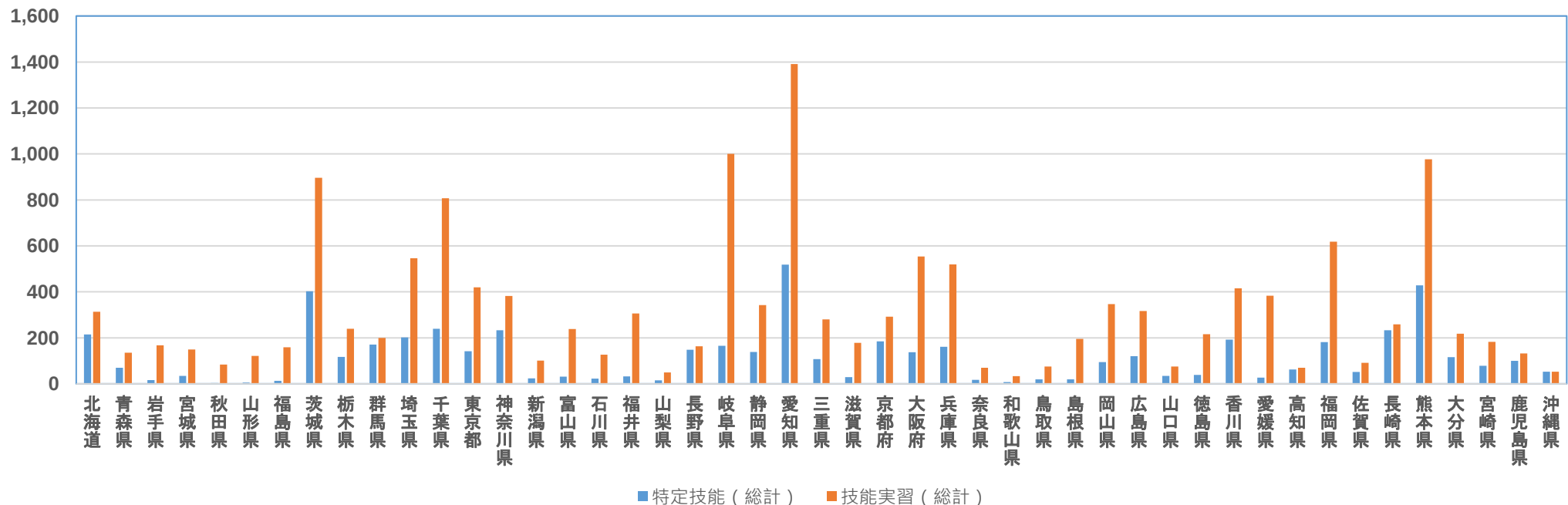
No	Country	2024		Apr-25	
		Total	Female	Total	Female
1	Thai	1,292,297	521,862	1,299,829	525,162
2	Sourth Korea (EPS)	47,014	10,675	46,658	10,692
3	Malaysia	21,982	21,079	21,982	21,079
4	Japan	21,053	9,000	20,734	8,788
5	Singapore	433	433	319	319
	Tota	1,382,917	563,187	1,389,649	566,167

(2025年現在、カンボジア労働職業訓練省発表)

5. 日本における在留カンボジア人労働者の動向

- 技能実習生・特定技能が就労する主な県は、多い順に①愛知県(1,910人)、②熊本県(1,405人)、③茨城県(1,299人)、大阪府(338人)
- 日本に滞在するカンボジア人労働者のうち、
技能実習生の主な職種は、多い順に①建築関係(3,539人)、②農業関係(2,364人)、③食品製造関係(1,773人)
特定技能の主な職種は、①農業分野(2,773人)、②建設分野(1,173人)、③飲食料品製造業分野(1,158人)

【令和5年末 都道府県別特定技能・技能実習の在留カンボジア人数】



6. カンボジア人受入のポイント

- アジア各国から、簡単に人が採用できない前提での受け入れ準備
→賃金水準の向上
- カンボジア人は仲間意識が強く、親戚・家族を大切にする
→カンボジア人同士のコミュニティづくり
- カンボジア人は明るく、お祭り好き
→参加できるイベントづくり
- 相談体制の整備
→クメール語での相談体制、ネット通話ができる環境整備



ご静聴ありがとうございました。

